



## 玉砥石と駿河玉造郷

沼津日枝神社(山王さん)の旧参道脇の1里塚(警察署裏の旧東海道沿い)の一郭に玉砥石と記された標柱と2本の石が建っています(写真 1)。説明板によると、県の指定考古資料であり、今から千二・三百年前に玉類を磨くために用いられた砥石と伝えられています。確かに二本の石の表面をよくみると、大きな爪痕のような直線的な筋が何本か見え、石の玉を磨いた跡とも見受けられます(写真 3)。

説明板によると、承平年間(九百三十一～九百三十八)に書かれた『和名類聚抄』(わみょうるいじゅしょう)という書物《平安時代中期に発行された辞書》の郷名には、駿河国駿河郡《現在の駿東郡》に玉造郷の名が見え、この玉造郷は、一説では香貫地区一帯であったとされています。この説を支える根拠としては、黒瀬橋を渡った狩野川対岸には玉造神社(写真 2)があり。また近くには、玉砥石が使われていたと考えられる時代の大集落である御幸町遺跡や藤井原遺跡がありました。また香貫地区には、かつて多くの古墳があり、そこには天神洞 3号墳という玉類を数多く出土した古墳もあります。なお、全国では玉造郷に類する郷名として『和名類聚抄』には、(表 1)のように8つ見ることができ、また玉造神社に関する名称として『延喜式』(えんぎしき)《平安時代の律令の細則で神社の祭神や格などを知ることができる》所載の玉造・玉祖神社の類は5つを数えることができます。なお、『延喜式』では玉造水神社を伊豆国田方郡としています。かつて狩野川は伊豆と駿河の境とされていた時代があり、香貫が伊豆国として記載されたものかも知れません。つまりは平安時代中期以前にはすでにこのあたりには玉造のムラがあったと考えられるのです。



玉砥石(写真 1)



玉造神社(写真 2)



とぎ跡(写真 3)



鬼かき石（写真 4）

国名	郡名	郷名	現推定地	出土遺物	備考
土佐	安芸	玉造	高知県安芸市土井		
駿河	駿河	玉造	静岡県沼津市	沼津市日枝神社境内玉砥石	
下総	匝瑳	玉作	千葉県香取郡多古町、佐原市		
		玉作	千葉県成田市八代	管玉未成品・玉砥石・原石	昭和37年11月発掘調査
陸奥	磐城	玉造	福島県石城郡四ツ倉町		
陸奥	磐前	玉造	宮城県玉造郡岩出山町	砥石および未成品	(昭和37年2月出土)須田経子氏教示
河内	高安	玉祖	大阪府八尾市(旧北高安村神立)	管玉未成品	
周防	佐波	玉祖	山口県防府市右田地区大字大崎		式内玉祖神社あり

延喜式所載 玉作・玉祖神社

国名	郡名	社名	祭神	現推定地	出土遺物	備考
近江	伊香	玉作神社	天ノ明玉命	滋賀県伊香郡木之本町千田	勾玉・砥石	現在は式内石作神社と合祠、石作玉作神社という
出雲	意宇	玉作湯神社	大名牟遲命・少名彦命 天櫛明玉命・五十猛命	島根県八束郡玉湯町玉造	勾玉・管玉・丸玉等、未成品・砥石	『古語拾遺』『延喜式』『風土記』等に記事あり他に仁多郡に玉作社(風土記)
伊豆	田方	玉作水神社	水波能女命	静岡県沼津市上香貫		一説に「玉祖神」を祠るという
河内	高安	玉祖神社	櫛明玉命	大阪府八尾市		倭名抄玉祖郷参照
周防	佐婆	玉祖神社	玉屋命・天鏡命	山口県防府市右田地区大字大崎		倭名抄玉祖郷参照

(表 1)

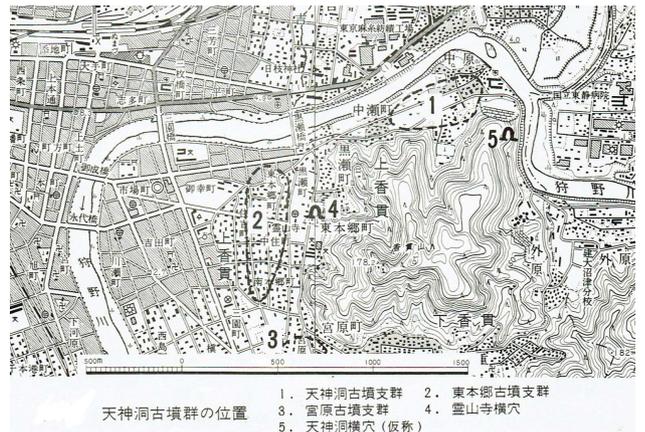
藤枝市鬼岩寺の 鬼かき石(玉砥石?)

(写真4)は静岡県藤枝市にある鬼岩寺の「鬼かき石」といわれるものです。伝承として、「昔この地に魔魅(悪鬼)が出現し、この岩にて爪を砥ぎ里人を悩ました。弘法大師はこれを聞き真言の密法をもって鬼を岩に封じ込め、諸人を救った。よってこの石を『鬼のかき石』と呼ぶ(石の爪跡と見るべし)、この爪あとを三回なでると手芸事が上達するという」としており、一説には玉を砥いた石であるとも言われている。なお、寺の裏の丘陵には静岡県指定史跡の若王子(にやくおうじ)古墳群があります。

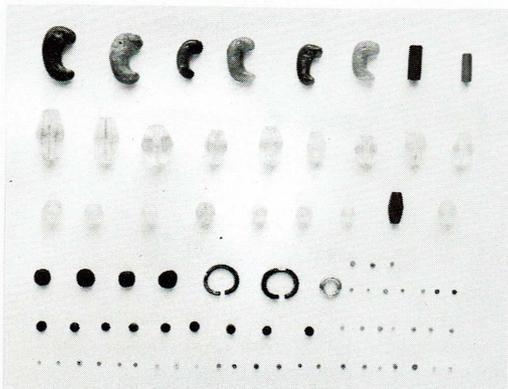
天神洞古墳群

(写真5)は沼津市中瀬町天神公園にある復元された天神洞古墳です。かつてこの地区一帯には香貫九十塚と称される古墳群が存在していました(図1)。昭和45年に行われた土地区画整理より確認された天神洞古墳群はこの香貫九十塚の一つで、調査により十余基の古墳が確認され三基の古墳の発掘調査がなされました。

発掘された古墳はいずれも横穴式石室の下部を残すのみでしたが、副葬品として、武器類や装身具、土器類などが数多く出土しました。特に天神洞3号墳からはメノウ製勾玉や水晶製キリコ玉碧玉製管玉など各種の玉類が90点ほど出土し貴重な発見となりました(写真6)。



香貫九十塚 (図 1)



第3号墳 出土装身具類 (小型の耳環 1のみ第4号墳出土)

天神洞3号墳出土玉類 (写真 6)



天神洞古墳(復元)(写真 5)

# ガラス製勾玉と鑄型

愛鷹山山麓には旧石器時代からの数多くの遺跡がありますが、今から約二千年前から千八百年前の弥生時代から古墳時代の初めにかけての大きな集落がいくつか見つかっています。その中の東部運輸免許センターと新東名高速道路建設に伴う「北神馬土手遺跡・植出遺跡」からは弥生時代の貴重なガラス製の勾玉(写真 7)が発見されました。そしてその10年後、隣接する「植出北Ⅱ遺跡」からは、ガラス勾玉を作るための土製の勾玉の鑄型が4点(写真 8)が発掘され、そのうちの一つの鑄型が10年前に発見された北神馬土手遺跡のガラス製勾玉と形が一致したのです。この事は弥生時代には、愛鷹山山麓で鑄型によるガラスの勾玉が生産されていた事をものがたっており、鑄型4点はこの地域の土を使って作られているのも判り、静岡県の有形文化財(考古資料)に指定されました。なお、沼津市一本松・桃里の中原遺跡ではガラス製小玉を作るための鑄型(写真 9)も出土しています。



ガラス製勾玉 (写真 7)

勾玉鑄型 (写真 8)



ガラス小玉鑄型とガラス小玉

## ガラス製玉の製作行程

## ガラス小玉鑄型 (写真 9)

### 鑄造 [ちゆうぞう]

石や粘土で作られた鑄型に、金属(主に青銅・鉄)やガラスを溶かして流し込み、様々な道具を作ること。中国では殷代以降鑄造技術が発達し、青銅器が隆盛したが、その影響は日本にも伝わり、弥生時代から青銅器の鑄造が始まった。この時期には、銅鐸・銅剣・銅矛・銅戈、そして鏡等が作られたが、仏教が伝わり、仏像・仏具などが盛んに作られるようになった。

### ●ガラス製小玉[にだま]の製作工程

(イラスト参考/瀬見浩『図解 技術の考古学』有斐閣、1988年)

#### A. 切断技法



#### B. 巻付け技法

粘土を薄く塗った針金に、溶かしたガラスを細く巻付ける

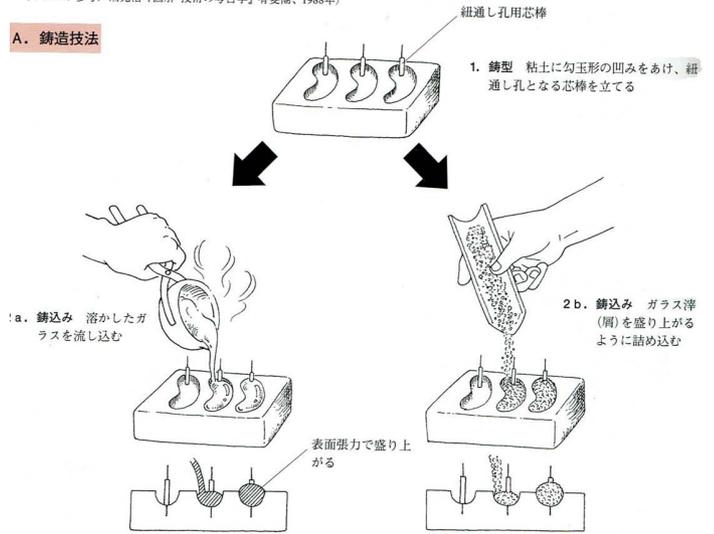
#### C. 鑄造技法

粘土を板状にし、小玉大の凹みを多数あけ、そこに紐通し孔となる芯棒を立てた鑄型に、ガラス滓(滓)を詰め、鑄型ごと熱してガラスを溶かす

### ●ガラス製勾玉[まがたま]の製作工程

(イラスト参考/瀬見浩『図解 技術の考古学』有斐閣、1988年)

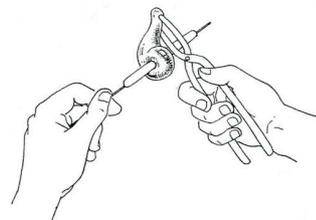
#### A. 鑄造技法



#### B. 巻付け引伸し技法

粘土を薄く塗った針金に、溶かしたガラスを巻付け、一方を引伸し勾玉形を作る

3. 加熱 鑄型ごと熱してガラスを溶かす



### 1 ガラス製小玉

下中央(アルカリ)径0.4cm・厚0.25cm  
東山田一本杉[ひがしやまだいっぼんすぎ]遺跡/佐賀県大和町  
弥生時代前期  
佐賀県教育庁文化財課所蔵

下中央は、珪砂[けいさ](石英砂)に炭酸ソーダを溶剤として加え、高温で熱して作られた「アルカリ石灰ガラス」製小玉。前期末の豊楢墓[かめかんぼ](SJ 078)から出土、弥生時代最古の

ガラス製品である。これまで、酸化鉛[さんかなまり]を溶剤として加えていた「鉛ガラス」(他の4点は鉛ガラス製、豊楢墓SJ 019出土)から弥生人のガラス工芸が始まったといわれてきた学説に疑問を投げ掛けた。アルカリ石灰ガラス製小玉は、他に比叡[ひえい]に研磨され、丸みがある。朝鮮半島を経由して中国からもたらされたとする考えもある。

## 高尾山古墳出土の勾玉

高尾山古墳被葬者の棺は木製(舟形木棺)で古墳墳丘上から掘り込まれた長さ5mあまりの墓坑に直接納められていました。このような埋葬を「木棺直葬」といい、この木棺の底には水銀朱(赤色顔料)が敷かれ、鉄製の鎌や槍、槍鉋や青銅鏡(破鏡)などが副葬されていました(写真 10)。また、遺骸の首あたりから下げられていたと思われる位置に勾玉が一点出土しており、材質は堆積岩と思われすが、緑黄色がかった風化層が形成されていました。勾玉の大きさは、長径1.25cm、短径0.95cm、屈曲部付近の厚さは3mmとごく小型の勾玉です(写真 11)。また勾玉の腹と穿孔部に朱と思われる赤色顔料が認められ、死者の鎮魂と再生を願って勾玉に塗布されていたとも考えられます。



高尾山古墳副葬品 勾玉・实物大  
(写真 11)



高尾山古墳副葬品(写真 10)

## 歩いてみよう駿河玉造郷

私たちの足元には案外知らない歴史が眠っています。そこに小さな案内板が立っていても、つい見過ごしがちです。でも、ほんのひと時立ち止まれば、その場所をどのような人々が過ぎていき、どのような景色があったのか、垣間見えるかも知れません。



### 参考文献

- 佐藤民雄 1980 「玉造神社の研究」『沼津市歴史民俗資料館紀要 4』沼津市歴史民俗資料館
- 沼津市教育委員会 1972「天神洞古群発掘調査報告書」『沼津市文化財調査報告第4集』
- 沼津市教育委員会 平成29年『高尾山古墳]-スルガの最初の王ここに眠る-』
- 富士市博物館 平成29年『第55回企画展 産業の種蒔く人』展示解説図録
- 沼津市文化財センター 2021 『沼津市文化財センター通信 Vol.6』
- 静岡県埋蔵文化財調査研究所 平成9年「北神馬土手遺跡他-(遺物編)」『静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第89集』
- 沼津市教育委員会 平成 23 年「二ッ洞南遺跡・植出北Ⅱ遺跡」『沼津市文化財調査報告書第 102 集』
- 沼津市教育委員会 平成 28 年「中原遺跡発掘調査報告書」『沼津市文化財調査報告書 第 113 集』
- 大田区立郷土博物館編 平成13年『ものづくりの考古学』-原始・古代の人々の知恵と工夫